

【高等部 国語 実践の概要】

- 高等部1年 国語 (単一障がい学級)
- 本時の題目:「場面や相手に応じて、敬語で話してみよう」
- 本時の目標:
 - ・「尊敬語」「丁寧語」の敬語を使う相手や場面を知ることができる。(知・技)
 - ・場面や相手に応じた言葉づかいを考え、話すことができる。(思・判・表)

対象生徒は一般企業への就労を目指している。しかし、中学校で「尊敬語」「丁寧語」「謙譲語」を学習していたが、実際に活用することができていなかった。そこで内容を「尊敬語」と「丁寧語」に焦点化し、学校生活や実習などで想定される場面をもとに、前時までに学習した敬語を用いて話すことができるようになることをねらいに授業を行った。授業は、グループに1台タブレットを用意し、その中に敬語を使う実際の場面を想定した問題があり、生徒が解きたい問題を選び、実際にその場面に応じた敬語を使うというものであった。生徒は、前時の学びを振り返りながら、実際の場面を想定して、教師を相手にロールプレイを行いながら学習する様子が見られた。

【良かった点・工夫されていた点】

- グループ活動を通して、自分で考えたことを、言語化して伝え合う場面が見られた。
- ロールプレイをしたことで、実際の場面を想定しやすくなり、「実習の時にあったよね」といった言葉を生徒自身が発していた。
- タブレットを用いることで、生徒自身が選んだ問題を、テレビで映し出すことができ、それを他のグループと共有することができていた。
- 生徒の実態と将来の進路を想定した問題を設定したことで、生徒自身も将来の姿を想定し、主体的に取り組む姿が見られた。また、自分で問題を選ぶという自己選択の場面があることで、「それじゃあ、私はこの問題を解く」と自分の課題に応じた問題を選ぶ姿が見られた。
- ロールプレイを行った後に、教師が助言をするのではなく、まず生徒同士で伝え合う場面を作ったことで、「良かったと思う」、「でも、この言い方の方がいいかも」と見ていた生徒が発言するなど、自分事として全員が取り組む姿が見られた。

【課題】

- 生徒がたくさん選択できるように、場面を6つ用意していたが、1時間の授業では6つの場面を振り返る時間を取ることができなかった。
- 時間に余裕はなかったため、めあての提示はしていたが、振り返りの場面を設けることができなかった。

【助言】

- 振り返りの時間を設定し、生徒の言葉で振り返りを行うことが深い学びにつながると言える。そのことを考慮すれば、1時間で扱う場面を4つ以内に絞り、生徒の言葉で振り返りをする時間を十分に確保すること。
- 丁寧な説明を行っていたが、もう少し導入部分を簡略化し、めあてと振り返りが対になるように提示し、その上で、振り返りを行うようにすること。

【総括】

生徒が自分の課題に応じた問題を選び、ロールプレイを通して、グループ全員で課題や答えを共有し、学んでほしいという教師の意図を反映した授業であった。意図的に教師が支援を減らし、生徒同士で意見を言い合える設定にしたことで、対話を通して思考する場面が多く見られる授業となった。また生徒自身が将来の就労に向けてという必要感を感じられるように設定したことで、主体的に取り組む姿が見られた。生徒同士で意見を言い合いながら、必要な時に教師が支援をするといった、学び合いを通して、思考を深める授業となっていた。